

巖島神社：ビーナスの花かご

巖島神社が収蔵する数々の宝物の中で特に珍しいのが、西太平洋を原産とする管状の籠のような生物であるこの深海海綿です。その内部にはロブスターやカニと近縁種の2匹のエビのような生き物が入っています。この2匹のドウケツエビは雄と雌で、その生涯を海綿の内部で過ごします。2匹は海綿を掃除し、その見返りとして海綿がその組織内に捕えて籠の中へ放出する栄養分から恩恵を受けます。海綿と海綿が住まわせているエビのカップルは共生関係の中で存在しており、どちらかが死ぬと、もう一方も死にます。

2匹のエビがその生涯を共に暮らし、カイロウドウケツの中で一緒に「埋葬」されるこの関係性は、昔から幸福な結婚の象徴と考えられていました。そのため中にエビが入った海綿は縁起物と見なされ、乾燥させたものが結婚祝いとして贈られました。カイロウドウケツは通常、350~1,000メートルの深さで見つかります。この深海の生息環境がそれらの海綿を、昔の日本においては稀なものとされていました。ここで見られる標本は、現在の静岡県の駿河湾で採取されたものです。